

茶歌再創造と現代的奏演の発展に向けて

—学校や市民との連携活動報告—

For Developing Recreation and Contemporary Performance of Tea Songs:
A Report of Activities Cooperated with Schools and Local people.

大槻 寛・柳沢信芳・小西潤子

Hiroshi OTSUKI, Nobuyoshi YANAGISAWA and Junko KONISHI

（平成18年10月2日受理）

はじめに

本報告は、平成16年5月から実施している「学校と地域社会を結ぶ民謡の発展的創造と現代的奏演に関する調査研究」のうち、平成17年10月から平成18年9月まで¹の経緯および結果をまとめたものである。今回は、茶歌やその奏演に関する聞き取り調査など追調査をはじめ、市民参加型の茶歌再創造と現代的奏演を動物園や公民館等公共施設で行い、広く周知したこと、および茶歌を学校教育現場に適應させるための工夫や実践を行った。

以下では、1. 茶歌・茶文化に関する聞き取り調査、2. 公共施設での活動、3. 学校教育現場への展開模索について、それぞれの概要と成果に関する簡単なコメントを記す。また、参考として4. 関連施設訪問や奏演情報収集活動記録をまとめた。

1. 茶歌・茶文化に関する聞き取り調査

* 秋山愛子氏（藤枝市在住）聞き取り調査

（2006年3月18日 於：焼津市大村中学校前 大槻）

明治期或いは大正期にかけて、茶摘みの忙しい時期には田植えと同じように援農集団（田植えの時期が温度差によって僅かずつ各地域異なるために、少しずつ移動して作業を請負う専門集団があり、早乙女衆などと呼ばれた。有名な平塚早乙女衆等は箱根山を軸として左回りに松田・御殿場・裾野・田方郡にかけて少しずつ南下して機械力の無かった当時迅速な田植え作業で有り難がられた。当然そこから労作唄として田植え歌などが多く生まれた²。）が存在していたことが伺われる。聞き取り調査によれば、ある程度長期の滞在であったようで、仕事人の母親が連れてきた小さい女の子は恐らくその食い扶持（ご飯代）のため仕事先の子守をさせられた。そこに子守歌が竹田の子守歌や五木の子守歌のように、赤子への愛情と言うより子守りのつらい立場を歌い込んだ歌として存在していたという事例になる。茶摘み唄とは直接関わらないが旋律の音楽的特徴や歌詞は同時期の民謡として関連性を考慮すべきものと考えられる。

・調査記録

秋山さんは現在75才、掛川市仁藤のご出身でいまから40年ほど以前に現住所の焼津へ来られた。今か

ら約10年前秋山さんの経営する美容院（大村中学校旧正門近く）へ焼津駅北に住む90才ぐらいのおばあさんが数度客としてやってきていた。おばあさんは焼津駅北の大賞寺近辺に住んでいるらしかったが名前も住所も聞かなかった。秋山さんは普段から民謡が好きで自分で歌を創って仲間と持ち合った歌を歌って楽しんでた。現在も焼津市民謡同好会の一人として活動している。

客のおばあさんに静岡県の何か良い民謡はないかと尋ねた。そうしたところ「自分が小さいときに家（岡部の茶農家）へ焼津から若い母親と10才ぐらいの女の子が茶摘み手伝いとしてやってきた。茶摘みの季節は10日ぐらい泊まり込んで働いていた。（明治末か大正時代？）女の子は茶摘みの仕事はせずに仕事先の家の子守をした。私は子守をされながら聴いた歌がこんなだよ。とって歌ってくれた。

そのときの歌が次のようなものだった。歌詞は2番までであり、おばあさんの声を以前カセットテープに録音していたが現在は紛失してしまった。そこで今回は歌詞を書いてもらい秋山さんの記憶にあるメロディーを歌って戴いた。

もりだもりだと 小馬鹿にするなよ
 うちがこまるで きたじゃないよ
 おやにさそわれて 義理で（嫌々）きたよ

2. 公共施設での活動

茶歌再創造を市民へ広め周知するために公共施設による共催イベントを企画した。逐次報道関係へも情報を提供し、新聞やテレビ・ラジオ等での広報および直接の演奏が放映される事により不特定の市民へ音楽が届くこととなった。特筆すべきことはイベント協力者の中から新たな茶歌創造がなされたことである。異なる音楽ジャンルや年齢層への広がり萌芽が見られた。

* 静岡大学茶歌プロジェクト・音楽パフォーマンス

（2005年10月29～30日 於：静岡市立日本平動物園 大槻・柳沢・小西）

本イベントは、シンポジウムの成果を受けてより広く一般市民の前で茶歌の再創造に関する成果を公表する機会として、静岡市立日本平動物園のご協力によって実施したものである。これに際しては、まず2005年7月22日に同園学芸員・佐渡友陽一氏と打ち合わせをし、恒例の「秋の動物園まつり」期間中に実施すること、また人出の少ない雨天にも対応できるように2日間設定すること、パフォーマンスの場所については電源の確保と楽器管理の都合によって入場門すぐのピロティを使用することなどを打ち合わせた。

動物園は、音楽鑑賞や茶文化への特別な関心をもつ人々だけが集まるわけではない。それゆえ、再創造した茶歌を披露し評価を受ける場としては最適だといえるが、ピアノを持ち込むことが不可能であることや動物を刺激しない音響環境を保つ必要があるという制限があった。そこで、ピアノ演奏による《茶歌ヴァリエⅠ》《茶歌ヴァリエⅡ》については、ビデオ上演することにした。また、シンポジウムでさまざまな楽器編成による茶歌へのニーズがあることが確認できたため、この場で演奏可能なピアノ以外の楽器を使った新しい変奏によるパフォーマンス演目を立てることにした。

その1つがトイピアノ（いわゆるおもちゃのピアノ）による即興演奏である。演奏は、寺崎庸氏（当時静岡大学教育学研究科1年）に依頼することにした。これにあたっては、大槻が8小節からなる茶歌の《モチーフ》を寺崎氏に提示し、若い感性に任せた即興演奏をするように指示した。茶を飲む場にふ

さわしくするため少し都会的に洗練された響きをもつ《茶歌ヴァリエⅠ》《茶歌ヴァリエⅡ》とは異なり、子どもたちも馴染めるかわいらしい音色による演奏となり、終了後もトイピアノに手を触れる子どもたちもいた。

もう1つが静岡ウクレレクラブによる、ハワイアンスタンダード曲および同指導者である竹島康博氏の作詞作曲による《ウクレレ茶歌》および《茶刈機音頭》である。

プロジェクト・メンバーの小西は、2005年8月6日に開催された静岡健康文化交流館「来・て・こ」主催のイベント「来・て・こ de 夏休み」に参加協力したことがきっかけとなり、60歳以上の市民から構成されるハワイアン・アマチュアバンドである静岡ウクレレクラブとの交流があった。そこで、ウクレレ版の茶歌へと再創造することを提案し、2005年7月19日と8月10日に浅野富夫氏（当時の代表者）および上記の竹島氏との打ち合わせを行い、竹島氏が新曲を創作・披露することで了解を得た。このパフォーマンスの様子は、新聞記事として掲載された（『静岡新聞』2005年10月30日朝刊）。

当日は、静岡大学学生（細澤こころ [当時2年]、野田明日香 [当時1年]、山城郁代 [当時4年]、ツォク [当時教育学研究科2年]）も参加し、準備および子どもなど来場者とのコミュニケーション、アンケート記載依頼などを行った。残念ながら、第1日目は雨天のため入場者数は少なかったが、静岡市立日本平動物園へのイベントに対する問い合わせもあり、動物園と茶歌とウクレレ、トイピアノという異色の組み合わせによるパフォーマンスへの市民の関心の高さがうかがわれた。

* 静岡県茶文化普及啓発事業「静岡音楽茶^サロン」

（2005年11月17日 於：グランシップ6F、交流ホール 大槻・柳沢・小西）

本イベントは世界緑茶協会主催によるもので、先のシンポジウムを聴講した当時静岡県お茶室・野毛勉主査からの協力要請にこたえ本プロジェクト協力事業として開催された。新しい茶文化の創造を促すことを目的とし、O-CHA フロンティアコンテストおよび平成17 [2005] 年 O-CHA パイオニア賞表彰式、同コンテスト出品茶の展示、同金賞受賞茶ウェルカムティーサービス、緑茶を使った創作菓子（ハーブ緑茶と抹茶を使ったシフォンケーキ、濃茶のティラミス、お茶のフィナンシェの盛り合わせ）付の喫茶および成果発表の場としての音楽プログラムから成り立つものであった。O-CHA フロンティアコンテストとは、新しいコンセプトを持った「明日の銘茶」の発掘を通じて緑茶の需要拡大を図るために毎年開催されているお茶のコンテストであり、同年には70点の応募があったものである。サロン風に仕立て丸テーブルが設置された会場で、参加者には創作菓子がふるまわれた。

音楽プログラムにおいては、小西の解説を交えながら柳沢によるピアノ演奏で《モチーフ》および《茶歌ヴァリエⅡ》を披露した。今回特別に調達したウィーンのベーゼンドルファー社製のまろやかで温かみのある音色に、参加者は熱心に耳を傾けていた。次に、《モチーフ》を若々しさと独自の感性、テクニックを使ってアレンジした寺崎庸（当時静岡大学教育学研究科1年）による《茶歌即興変奏》を披露した。同じモチーフを使ってのピアノ演奏でも、全く異なる趣の音楽に展開できる可能性を示すためのものであった。

休憩を挟んでの後半は、異なる種類の楽器を使って《モチーフ》の展開を試みるものとした。その第一番目として、ツォク（当時静岡大学教育学研究科2年）による《馬頭琴による茶歌》を披露した。ツォクは、中国内モンゴル出身で民族音楽学を学ぶ学生である。これまで、一般向け演奏会での演奏経験があったが、今回は大槻が《モチーフ》の楽譜を手渡し、「好きなように演奏を展開するように」とのみ指示した。それに対して、ツォクは「幼少時に祖父母と過ごした草原を思い出しながら演奏を試みる」と参加者に説明し、楽器の特性を生かしたモンゴル風の茶歌を披露した。

続いての《サクソフォン4重奏による茶歌変奏》では、静岡大学サクソフォン・カルテット（志村朋子、小野恵子、北田裕亮、滝上裕美、いずれも同教育学部4年）が大槻作曲の同曲を披露した。プログラムの最後は、静岡ウクレレクラブによる《ウクレレ茶歌》《茶刈機音頭》であった。メンバーの熱意が十分伝わる温かみのある演奏に参加者も喝采し、最後にはあらかじめ配布しておいた歌詞カードを見ながら、参加者全員で《茶刈機音頭》を歌った。

なお、このイベントの様子は即日からテレビ（静岡テレビ2005年11月17日20時55分からのニュース、NHKテレビ2005年11月18日6時50分および同日7時30分からのニュース）で放映された。また、『静岡新聞』（2005年11月24日朝刊）にも取り上げられた。

3. 学校教育現場への展開模索について

学校と地域社会を結ぶ民謡の再創造という3年前からの調査研究最終年へ差し掛かり、茶歌再創造の学校への普及として近年重要視されつつある伝統和楽器の取り入れと方向を合わせて邦楽器等の合奏曲編曲と試演を始めた。

第1段階として懇談会やシンポジウム等当初から研究協力していただいている箏合奏中学・高校指導専門家の吉田理世・道美両氏と浜松在住の作曲家小菅由加里氏及び我々3名が共通の理解を深めるために箏の講習会と学校への普及編曲のための検討会を開いた。

第2段階として、小菅氏と箏演奏の専門家吉田両氏との間で生徒たちの演奏レベルと楽曲の効果・演奏可能度等について何度も摺り合わせをしていただき洋楽5線譜と箏曲用数字譜茶歌ヴァリエ編曲初級版が小菅由加里氏により完成した。

第3段階として平成18年度春からは浜松地区数校の中学・高校で選択授業クラブ活動等に採用して戴くために大槻・柳沢・小西の3名が直接浜松を訪れ各校長・教頭・音楽担当教諭等学校関係者を交えて話し合いを行った。その結果富塚中学校では今秋同校創立20周年記念行事の際浜松教育会館ホールで演奏発表が行われる予定である。他浜松地区中学・高校数校で実践活動に入りつつある。

当面の課題としては 取り組んでいただいている中学・高校の生徒さんたちからふさわしい歌詞を提案してもらうことや、演奏の立場からの提案をフィードバックして曲を改良し更に多くの学校等へ広げること、箏以外の邦楽器や吹奏楽等へも横断的に編曲を広げて行くことなどである。

* 箏曲合奏理解のための講習会

茶歌の新しい演奏表現を習得するためのヒントとして、箏の演奏法に関する講習会を開催し、学生を中心に関係者に呼びかけて参加を促した。

第1回 箏の講習会

(2006年2月14日 10:00~12:00 静岡大学 講師：吉田理世・吉田道美各氏)

(参加者 大槻 柳沢 小西 大学院生・学生・プロジェクト関係者7名)

主な講習内容

箏の設置 柱の立て方 音あわせ 座り方 基礎練習 《さくら》の演奏

今回の講習によって習得したことのなかで特に注意すべき点は、弦をはじく時の手、指の力のかけ方や肘や肩に力を入れないことであった。また、箏は購入時には既に弦が張られた状態にあり、断弦の時には職人に張りなおしてもらうとの箏であった。

第2回 箏の講習会

(2006年2月24日 10:00~12:00 静岡大学 講師：吉田道美氏)

(参加者 大槻 柳沢 大学院生・学生・プロジェクト関係者5名)

主な講習内容

流し爪・引き連・輪連・かき爪・わり爪・合せ爪の技法修得 戻し弾きの練習

2つのグループに分かれて《さくら》の合奏を行った。

* 茶歌ヴァリエⅡから箏曲合奏への編曲

2006年2月より、2度に渡る箏の講習会を経て、学校教育への伝統音楽と地域文化の導入という両面から《茶歌ヴァリエⅡ》を中・高等学校用箏曲合奏へ編曲しようという意見が提案された。講習会受講者の内で大槻が作曲の指導を行った小菅由加里氏と講師を務めた吉田理世、吉田道美各氏は連携してその編曲試作を行うこととなった。演奏指導の実際に詳しい両氏と作曲家が密接な連携をしながら、試作作品の運用を教育現場で取り組み始めた。

浜松市立天竜中学校教諭斉藤昇氏の協力を得て小菅由加里氏編曲による試作品を吉田道美講師の指導により同校の中学生に試弾してもらいながら改良をしていくという機会を得た。

* 2006年5月9日浜松地区学校への展開（大槻・柳沢・小西）

- ・附属浜松中学校箏曲合奏授業展開等の打ち合わせ（同校音楽教諭：斉藤昇氏及び箏曲指導講師：吉田理世氏・吉田道美氏 編曲者：小菅由加里氏等と合同）

主として 秋の研究授業発表へ箏曲合奏を盛り込む計画の検討を行った。

- ・浜松市立富塚中学校箏曲合奏授業計画の打ち合わせ（同校校長：斉藤健二氏・同校音楽教諭：内山陽子氏及び箏曲指導講師：吉田理世氏・吉田道美氏 編曲者：小菅由加里氏等と合同）

平成18年10月26日浜松市教育会館で行う予定の同校創立20周年記念式での茶歌ヴァリエ箏曲編曲演奏へ授業計画等を検討し、逐次学校教育現場への伝統音楽取り入れの具体例として地域報道関係者や学外への広報についても検討を行った。

- ・専門家による箏曲合奏編曲諸問題についての研究検討会（浜松吉田道美宅）

（箏曲指導講師：吉田理世氏・吉田道美氏 編曲者：小菅由加里氏等と合同）

現作曲家大槻寛のピアノ曲「茶歌ヴァリエⅡ」からどのように主題等を抽出し箏曲合奏曲へ編曲したかを編曲者小菅由加里氏からの詳しい説明を受けた。西洋音楽5線譜と箏曲伝統数字譜の作成と音楽的工夫について楽譜と両吉田講師による実音演奏を交えて検討を行った。（楽譜写真1～2参照）

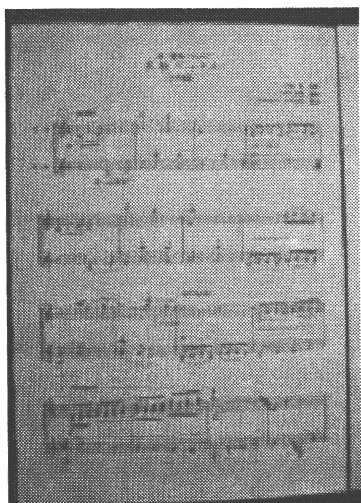


写真1 (箏曲合奏初級5線譜)

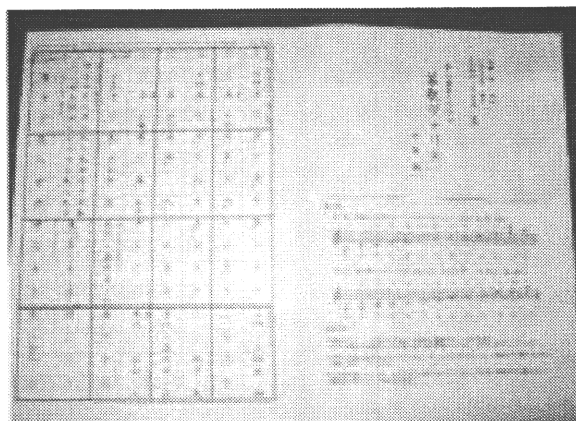


写真2 (箏曲合奏初級箏曲数字譜)

*** 2006年9月12日富塚中授業視察 (大槻・小西)**

14:25~15:15選択授業 (音楽担当教諭:内山陽子氏 箏指導講師:吉田理世氏) 生徒26名の箏曲練習を聴く

練習開始後7~8回目となる授業の途中成果を見学し助言を行った。全体的に予想された以上の聞きやすい仕上がりとなっていたが、日本音楽独特の伝統的な間の取り方にやや難点が見られた。この点は茶歌ヴァリエだけの問題ではないが注目しておかなければならない点である。床に正座して演奏することは現代の中学生には相当大変な事であることが理解された。(写真5~6参照)

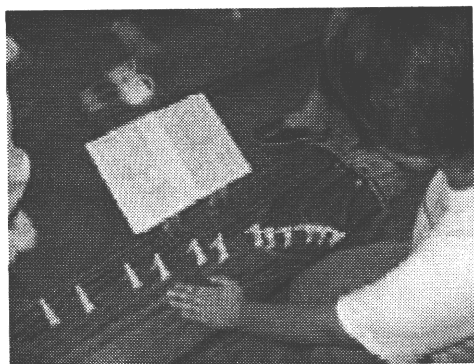


写真3 「数字譜からの練習」(富塚中学)



写真4 「合奏風景」(富塚中学)

*** その他の浜松地区に於ける学校音楽との連携活動**

- ・浜松市立高校文化祭に於いて茶歌ヴァリエ箏曲合奏初級が演奏された。
- ・浜松北方面の都田中学校 (校長内山達郎先生・指導吉田理世講師) 3年生21名による練習が平成18年5月から開始され同年11月に演奏発表の予定。

4-1 関連施設訪問

関西方面

茶文化発祥の地であり伝統的な茶室建築や庭園、展示物などから根源の風情を感じ取ることが茶歌再創造や現代的奏演の開発に大いに寄与した。

- ・京都国立博物館 (京都市 2005年11月27日 柳沢)

- ・桂離宮（京都市 2005年11月28日 柳沢）

桂離宮は、当時盛んであった茶道の趣味を実現した一連の茶室には「わび」「さび」の雰囲気が高い、端正なたたずまいに日本人の美的感覚が見て取れた。松琴亭などの茶亭や楽器の間を視察しながら音楽をする空間、自然に対する開放感から生ずる感性についての考察を深めた。

- ・修学院（京都市 2005年11月29日 柳沢）

上・中・下の3つの御茶屋がある。下御茶屋の寿月観の一の間には、琵琶床と呼ばれる琵琶が置かれた脇床がある。三の間が茶室になっており、女院の御座の間であったといわれている。

- ・銀閣寺（京都市 2005年11月30日 柳沢）

寺社建築とお茶、音楽についての関連性について考察を深めた。

- ・上林記念館お茶の博物館（宇治市 2006年1月5日 大槻）

上林翁宛千利休の手紙やルソン壺、江戸期の製茶資料から宇治茶の源流を理解した。特にお茶壺道中に関する資料展示はわらべ唄「ずいずいずっころばし」の起元となっていて、お茶と民謡の関係について認識を深めた。

首都圏方面

主として博物館展示から現代的奏演の開発に寄与する資料やヒントを得た。

- ・横浜市歴史博物館（横浜市 2006年2月1日 柳沢）

この博物館では、奏演に関する貴重な資料を入手した。資料には1854年3月アメリカ合衆国東インド艦隊ペリー提督の上陸に際してはじめて横浜で西洋楽器が演奏された様子や、横浜が西洋楽器の製造発祥の地となり、1945年くらいまで風琴・洋琴と呼ばれていたオルガンやピアノなどの西洋楽器の製造地として栄えていたことが記されている。

- ・古賀政男音楽記念館（東京都渋谷区 2006年2月26日 柳沢）

一般の人々の求める音楽についての考察を通し、今後の茶歌再創造と奏演による地域活性化に向けての参考になった。

国外

- ・ニューヨーク市立博物館（アメリカ合衆国・ニューヨーク 2005年9月2日 柳沢）

- ・ピーボディ博物館（アメリカ合衆国・ボストン ハーバード大学 2005年9月5日 柳沢）

合衆国における音楽事情及び茶文化に関する調査、視察を行った。

- ・メトロポリタン美術館（ニューヨーク 2005年9月3日 柳沢）

- ・ボストン美術館（ボストン 2005年9月8日 柳沢）

世界3大ミュージアムの1つとして挙げられるメトロポリタン美術館、それに比べると外観は小規模であるが、貯蔵品の量や展示品の質の高さでは匹敵するボストン美術館である。世界のアートに並んで中国、日本の展示室がある。楽器も豊富に揃っており、中国楽器と和楽器を比較することにより、長い年月の中での楽器の形態の変化や伝播の推移を観察することが出来た。また、陶磁器の部屋が設置されており、芸術品として貴重な食器、茶器が展示されていた。

4-11 関連演奏会・祭典等の見学

- ・N.Yベーゼンドルファー（ニューヨーク 2005年9月10日 柳沢）

デザインセンター9階のベーゼンドルファーショールームを訪ねて、ピアノを試弾させてもらった。合衆国では近年ベーゼンドルファーに関心が寄せられてきているとのこと。

* 海外の演芸

- ・ブロードウェイ（アメリカ合衆国、ニューヨーク 2005年9月2日 柳沢）

Lunt Fontana Theater でミュージカル《美女と野獣》を観覧した。ステージでの公演はさすがに迫力に富んだ見ごたえのあるものであり、音楽表現についての考察を深めた。

- ・音楽大学の視察（ニューイングランド音楽大学、バークリー音楽院）
（アメリカ合衆国、ボストン 2005年9月7日 柳沢）

* ストリートパフォーマンス

- ・ボストン Down town, Quincy Market（ボストン 2005年9月6日 柳沢）

旧市街地ではアクロバティックなパフォーマンスが行われていた。

- ・ニューヨーク ストロベリーパーク（ニューヨーク 2005年9月11日 柳沢）

パフォーマンスは、ジョンレノンの《IMAGINE》の碑のあるストロベリーパークで行われていた。碑には赤と黄色のバラが手向けられていた。公園内のいたるところで人が集まり、音楽のパフォーマンスが行われていた。「9. 11」の日の警戒心や緊張感は感じられなかった。

以上の古今東西の音楽会や公演を通じて、過去の芸術遺産を現代化するための奏演技術や表現方法、再創造するときの視点やエネルギー、場に応じての即興の展開方法などについて理解を深めた。これらによって、程度や手法の差はあるが普遍的ともいえる奏演の現代化の実態を確認するとともに、今後プロジェクトでの展開方法を考える参考になった。

- ・スペイン民族音楽と市民の連携（マドリッド市 2005年9月23日～10月8日 大槻）

王立マドリッド音楽院のエミリオ教授と市民との連携から見た「ホタおよびサルスエラ」の歴史と現代化について研究交流を行った。

国内の演奏会

- ・松本民之助追悼作品展（旧東京音楽学校奏楽堂 2005年10月22日 大槻）

民謡を素材とする著名な邦人作曲家の手稿楽譜や演奏から現代的奏演のヒントを得た。

- ・河野克典バリトンリサイタル（上野文化会館 2006年1月31日 柳沢）

ピアノ野平一平 シューベルト作曲歌曲「冬の旅」

ヨーロッパの名曲を邦人がいかに演奏解釈して表現するのかを考察した。

i 本調査研究の目的および平成16年5月から平成16年9月までの経緯については、1昨年度の報告書（大槻・柳沢・小西 2005「静岡県の民謡再発掘とその発展的創造、現代的奏演に向けての調査研究報告」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』55：267-272）と平成16年10月から平成17年9月までの経緯については、昨年度の報告書（柳沢・大槻・小西 2006調査研究報告「静岡の茶歌再創造と現代的奏演」—市民参加型をめざして—『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』56：305-312）を参照されたい。

ii 平成8年御殿場市中畑在住田植え唄保存会会長：勝又梅香氏から聞き取り取材した（大槻）。

iii 平成17年7月3日日本音楽表現学会第3回全国大会シンポジウム（静岡市グランシップ）。